

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：気候変動等による地球環境の緊急事態に社会とどう立ち向かうか
－環境学の新展開－

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

- ・主催：環境学委員会、公益社団法人環境科学会
- ・協力：環境工学連合小委員会

3 開催日時：令和3年7月3日（土） 13時00分～17時50分

4 開催場所：オンライン

5 開催趣旨：

環境学は大きな変革期にある。人間活動の影響による気候変動は洪水や渇水を引き起こす異常気象や森林火災の頻度を高め、新型コロナウイルス感染症は地球規模で社会に甚大な影響を及ぼしている。ほかにも生物多様性の損失や化学物質汚染など、いわば地球環境の緊急事態は深刻さを増している。これらの課題に対し、情報技術や環境投資などの誘導策も活用した、経済、社会、教育等が連携した社会全体のパラダイムシフトが強く求められている。日本学術会議の中でも多分野のメンバーが関与する環境学から、それぞれの分野の最先端の動きを紹介し、緊急を要する環境学の新たな展開を考えるフォーラムの第1弾として実施した。

6 参加人数：

講演者等：16名

その他の参加者：視聴者数（平均）230名（7月12日現在 796回）

7 特記事項：

高村副会長の基調講演に続き、13の分科会、小委員会の発表、学会・国研との連携も兼ねた発表を行った。事後アンケートでは93%が大変良かった、良かったという感想であった。委員会内でもこのような情報共有の機会は少なく、他の分科会の活動状況を知ることができ、非常に良かったとの意見があった。YouTubeの配信継続では、790回を超える再生があった。オンライン実施は、首都圏以外の全国の大学や環境関連の活動をしている方々も参加しやすかったとのことであった。アンケート結果では、学術を社会に反映させることの重要性が多く指摘された。今後、環境学に関するご意見等を踏まえ、テーマを絞りシンポジウム等を実施し、委員会や分科会からの意志の表出等に反映させたい。